



Sun StorEdge™ 3000 Family Diagnostic Reporter 2.0 ユーザーズガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-2774-12
2005年2月、改訂第A版

コメントの送付先:<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright © 2003-2005 Dot Hill Systems Corporation, 6305 El Camino Real, Carlsbad, California 92009, USA. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および Dot Hill Systems Corporation は、本製品または文書に含まれる技術に関する知的所有権を所有していることがあります。特に、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に記載される米国特許権が 1 つ以上、あるいは、米国およびその他の国における追加特許権または申請中特許権が 1 つ以上、制限なく含まれている場合があります。

本製品または文書は、その使用、複製配布、およびデコンパイルを制限するライセンスの下に配布されます。Sun およびそのライセンサ (該当する場合) からの書面による事前の許可なく、いかなる手段や形態においても、本製品または文書の全部または一部を複製することを禁じます。

サードパーティソフトウェアは、Sun のサプライヤより著作権およびライセンスを受けています。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、米国およびその他の国における登録商標であり、X/Open Company, Ltd. からの独占ライセンスを受けています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Sun StorEdge、AnswerBook2、docs.sun.com、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

米国政府の権利 - 商用。政府内ユーザーは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および該当する FAR の条項とその補足条項の対象となります。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性、または権利の非侵害性に関する黙示の保証を含む、すべての明示的または黙示的な条件、表明および保証を否認します。ただし、これらの否認が法令で認められていない場合はこの限りではありません。



Adobe PostScript

目次

はじめに v

1. 概要 1

Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール 1

Sun StorEdge Diagnostic Reporter とは 1

Sun StorEdge Diagnostic Reporter の動作メカニズム 3

2. Sun StorEdge の使用 5

Sun StorEdge Diagnostic Reporter の設定 5

▼ 構成を設定する 6

 ホストイベントログ 13

▼ レポート機能を設定して使用する 14

▼ メール受信機能を設定して使用する 16

障害追跡 17

▼ Solaris または Linux ホスト上で Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止し、再起動する 18

▼ Windows 2000 または 2003 ホスト上で Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止し、再起動する 18

▼ HP-UX ホスト上で Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止し、再起動する 19

▼ IBM AIX ホスト上で Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止し、再起動する 19

はじめに

このマニュアルでは、Sun StorEdge Configuration Service の併用ユーティリティとして、Sun StorEdge™ Diagnostic Reporter を使用する方法について説明します。Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール方法については、『Sun StorEdge 3000 Family ソフトウェアインストールガイド』を参照してください。

特に指定がないかぎり、Sun StorEdge 3120 SCSI Array、Sun StorEdge 3310 SCSI アレイ、Sun StorEdge 3320 SCSI Array、Sun StorEdge 3510 FC Array、および Sun StorEdge 3511 SATA Array を「アレイ」と呼びます。

このマニュアルは、Sun のハードウェアおよびソフトウェア製品の使用に習熟した上級システム管理者を対象としています。

内容の紹介

このマニュアルでは、次のトピックを扱っています。

第 1 章 : Sun StorEdge Diagnostic Reporter の機能を紹介し、その動作について概説します。

第 2 章 : Sun StorEdge Diagnostic Reporter のセットアップの手順を説明します。

UNIX コマンドの使用

基本的な UNIX® コマンド情報のほか、システムのシャットダウンや起動、デバイスの構成などの手順の一部は、このマニュアルでは説明しません。次の関連文書を参照してください。

- 使用システムに付属しているソフトウェアマニュアル
- Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルのスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルと Korn シェルのスーパーユーザー	#

表記上の規則

書体 ¹	意味	例
AaBbCc123	コマンド、ファイル、ディレクトリ の名前。画面に表示されるコン ピュータ出力。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使って、全ファイルを一覧表示 します。 % You have mail.
AaBbCc123	画面上のコンピュータ出力と区別 し、ユーザーが入力する内容。	% su Password:
AaBbCc123	コマンド行変数は、実際の名前また は値で置き換えます。	これらは <i>class</i> オプションと呼ばれます。 ファイルを削除するには、 <i>rm filename</i> と 入力します。

1 これらの書体は、使用しているブラウザの設定により異なる場合があります。

関連マニュアル

次の表に、関連ソフトウェアマニュアルを一覧表示します。すべての関連マニュアルを確認したい場合は、ご使用の阵列の『Sun StorEdge 3000 Family 導入・運用・サービスマニュアル』を参照してください。

タイトル	Part No.
Sun StorEdge 3120 SCSI Array Release Notes	816-7955
Sun StorEdge 3310 SCSI Array リリースノート	816-7292
Sun StorEdge 3320 SCSI Array Release Notes	817-7660
Sun StorEdge 3510 FC Array and Sun StorEdge 3511 SATA Array Release Notes	817-6597
Sun StorEdge 3000 Family 2.0 Software Installation Guide	817-3764
Sun StorEdge 3000 Family RAID Firmware 4.1x User's Guide	817-3711
Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service 2.0 User's Guide	817-3337
Sun StorEdge 3000 Family Diagnostic Reporter 2.0 ユーザーズガイド	817-3338
Sun StorEdge 3000 Family CLI 2.0 ユーザーズガイド	817-4951

Sun の文書のアクセス

Sun StorEdge 3000 FC ファミリのすべてのマニュアルは、次の URL から PDF 形式および HTML 形式で入手できます。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Network_Storage_Solutions/Workgroup/

SCSI、FC、および SATA アレイのマニュアルは、それぞれ次の URL から入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/3120SCSIarray>

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/3310SCSIarray>

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/3320SCSIarray>

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/3510FCarray>

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/3511FCarray>

Sun の各種マニュアルは、次のサイトから表示、印刷、または購入することができます。

<http://www.sun.com/documentation>

テクニカルサポート

最新の技術情報や障害追跡に関するヒントは、ご使用のアレイのリリースノートを参照してください。次のディレクトリから入手可能です。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Network_Storage_Solutions/Workgroup/

このマニュアルを参照しても、この製品に関する技術的な質問の回答が得られない場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

米国内のサービスリクエストの開始またはお問い合わせは、次の Sun サポートにご連絡ください。

800-USA-4SUN

国際テクニカルサポートについては、次のサイトから該当国のセールスオフィスにご連絡ください。

<http://www.sun.com/service/contacting/sales.html>

508 アクセシビリティ機能

Sun StorEdge のマニュアルは、視覚障害を持つユーザーの支援テクノロジープログラムに対応した Section 508 準拠の HTML ファイルで入手できます。これらのファイルは、使用する製品の文書 CD に収められているほか、前述の「Sun の文書のアクセス」に記載されている Web サイトでも入手できます。さらに、ソフトウェアアプリケーションとファームウェアアプリケーションでは、キーボードナビゲーションとショートカットも使用できます。これらに関する説明は、ユーザーズガイドに記載されています。

コメントの送付

Sun では、よりよいマニュアルを作成するため、ユーザーからのフィードバックを受け付けています。ご意見やご提案の送付は、下記のサイトからお願いいたします。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、マニュアルのタイトルと Part No. もお書き添えください。『Sun StorEdge 3000 Family Diagnostic Reporter 2.0 ユーザーズガイド』、Part No. 817-2774-12。

概要

この章では、Sun StorEdge Diagnostic Reporter の機能を紹介します。この章には、以下の項目が含まれます。

- 1 ページの「[Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール](#)」
- 1 ページの「[Sun StorEdge Diagnostic Reporter とは](#)」
- 3 ページの「[Sun StorEdge Diagnostic Reporter の動作メカニズム](#)」

Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール

インストール手順については、『Sun StorEdge 3000 Family ソフトウェアインストールガイド』を参照してください。

Sun StorEdge Diagnostic Reporter とは

Sun StorEdge Configuration Service コンソールをフォアグラウンドで常時実行する代わりに、併用ユーティリティである Sun StorEdge Diagnostic Reporter を使用することができます。このユーティリティはバックグラウンドサービスとして実行され、ホストやアレイでトリガーイベントが発生すると、指定された電子メールアドレスにメッセージを送信します。Sun StorEdge Diagnostic Reporter は、以下の機能を提供します。

- 送信されるメッセージトラップの種類を指定する
- メッセージの送信のタイミングを指定する
- 暗号化されたメッセージを送信する
- メール受信機能でメッセージを受信し、暗号化されたメッセージを解読する（メール受信機能は、受信側のコンピュータに Microsoft Outlook などのプログラムがない場合に電子メール表示プログラムとして機能する）

Sun StorEdge Diagnostic Reporter をストレージデータネットワーク全体で使用するには、制御用 Sun StorEdge Configuration Service エージェントを持つ各コンピュータ上に、このユーティリティをサービスとしてインストールします。なお、制御用エージェントとは、特定のアレイと通信する唯一のエージェントを指します。

すべてのホストコンピュータに Sun StorEdge Diagnostic Reporter をインストールすることの主な利点は、各コンピュータに定期的に信号を送信して、ホストに障害が発生した際に、指定された電子メールアドレスに Configuration Service エージェントからシングルポイント障害メッセージを送信するように設定できることです。

Sun StorEdge Diagnostic Reporter は、次のコンポーネントから構成されます。

- Sun StorEdge Diagnostic Reporter エージェント (デーモン) - Diagnostic Reporter がインストールされたコンピュータ上で常時バックグラウンドで動作します。このデーモンは、Sun StorEdge Configuration Service が動作しているどのコンピュータにでもインストールし、使用できます。
- Sun StorEdge Diagnostic Reporter 設定機能 (UI) - アラートまたは情報として特定の電子メールアドレスに送信されるメッセージトラップと Configuration Service エージェントに送信されるメッセージトラップの種類を設定するユーティリティです。UI (ユーザーインタフェース) とも呼ばれます。
- Sun StorEdge Diagnostic Reporter メール受信機能 - 収集したメッセージを表示します。POP3 Mail Receiver とも呼ばれます。

注 - Sun StorEdge Configuration Service で確実に電子メールを受信できるようにするには、『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザーズガイド』の付録「電子メールと SNMP」で、トラップの設定方法を確認してください。

Sun StorEdge Diagnostic Reporter の動作メカニズム

Sun StorEdge Configuration Service エージェントに接続されたあと、Sun StorEdge Diagnostic Reporter は、このエージェントからのすべてのイベントを受信します。トラップ条件が指定されているイベントは、Sun StorEdge Diagnostic Reporter からユーザー指定の電子メールアドレスに送信されます。

注 – Sun StorEdge 3120 SCSI Array では、環境の障害またはハードドライブの障害が発生した場合にのみ、Sun StorEdge Diagnostic Reporter からトリガーイベント通知が送信されます。

Sun StorEdge Diagnostic Reporter がエージェントに接続できない場合やエージェントがオフラインの場合、Diagnostic Reporter は 5 分おきにそのエージェントの検出を試みます。これは、ネットワークトラフィックが多い場合に Sun StorEdge Diagnostic Reporter がエージェントから切断されるのを防ぐためです。

一般的な設定 ([図 1-1](#)) では、アレイホスト (コンピュータ #1、#2、#3) とアレイデバイス (それぞれ #A、#B、#C) を併用します。各ホストに、Sun StorEdge Configuration Service エージェントと Sun StorEdge Diagnostic Reporter デーモンをインストールします。設定ツールを使って、各 Sun StorEdge Diagnostic Reporter デーモンがイベントメッセージを任意の電子メールアドレスに送信するように設定できます。このアドレスのコンピュータ (コンピュータ #5) は、メール受信機能を使ってメッセージをダウンロードします。

Sun StorEdge Diagnostic Reporter 設定機能と Sun StorEdge Configuration Service コンソールは、ネットワーク上の任意のコンピュータに配置できますが、ここでは便宜上コンピュータ #4 に配置しています。

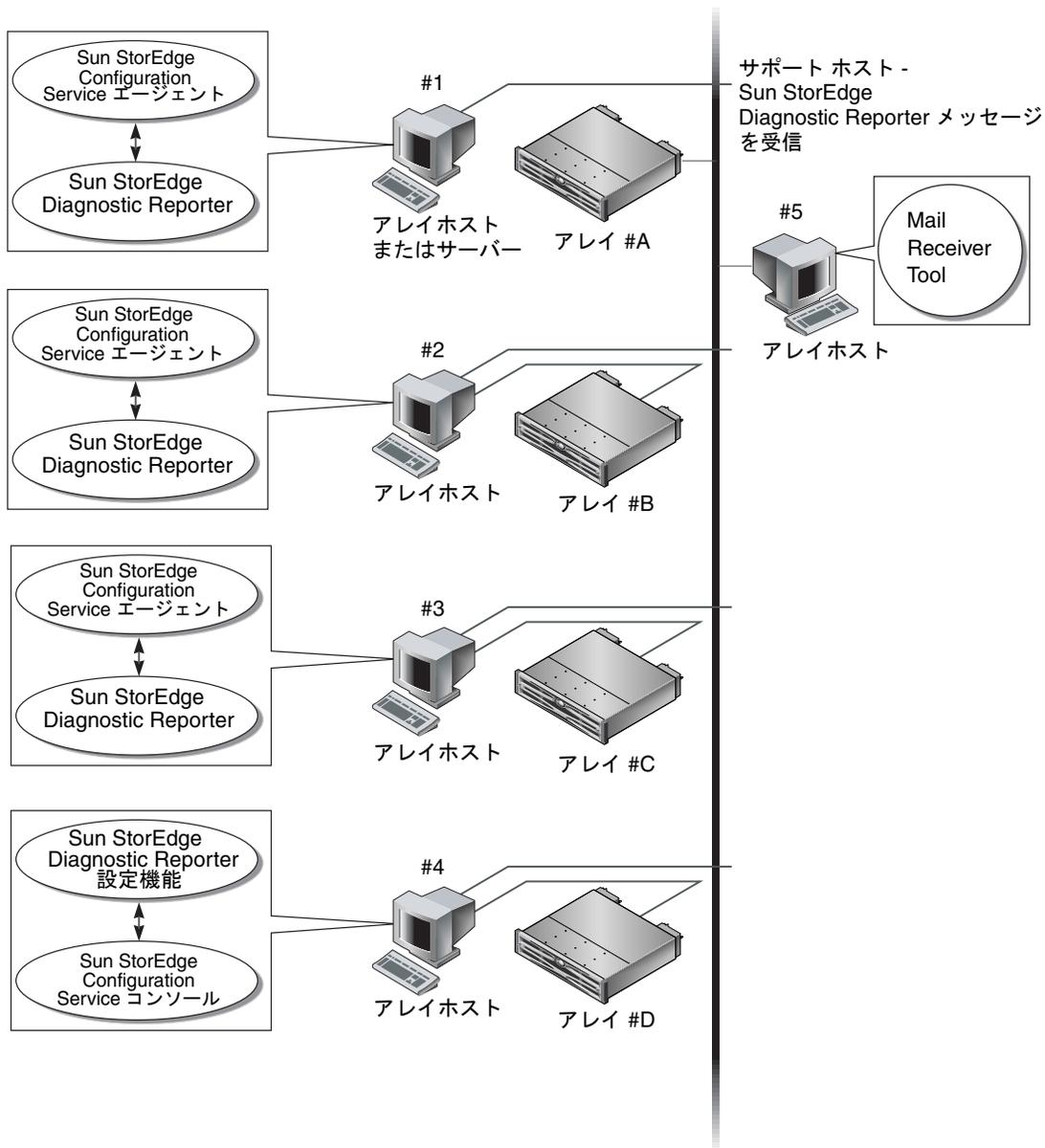


図 1-1 Sun StorEdge Diagnostic Reporter の一般的な設定

Sun StorEdge の使用

この章では、Sun StorEdge Diagnostic Reporter の使用手順について説明します。レポート機能とメール受信機能についても説明します。この章には、以下の項目が含まれます。

- 5 ページの「Sun StorEdge Diagnostic Reporter の設定」
 - 6 ページの「構成を設定する」
 - 14 ページの「レポート機能を設定して使用する」
 - 16 ページの「メール受信機能を設定して使用する」
- 17 ページの「障害追跡」

Sun StorEdge Diagnostic Reporter の設定

Config ユーティリティのインスタンスを、同時に複数開くことはできません。構成情報は、ssdgrpt_cfg.xml という名前のファイルに保存されます。このファイルの格納場所については、13 ページの「ホストイベントログ」を参照してください。

注 – 構成を変更し、その内容をサービスに適用するには、変更作業の完了後、Sun StorEdge Diagnostic Reporter サーバーに接続した状態で「構成を保存」をクリックします。

▼ 構成を設定する

1. Sun StorEdge Diagnostic Reporter を起動します。

- Solaris、Linux、HP-UX、または IBM AIX OS を使用している場合は、次のように入力します。

```
# ssdgrptui
```

- Windows 2000 OS を使用では、「スタート」 → 「すべてのプログラム」 → 「Sun StorEdge 3000 Family」 → 「Diagnostic Reporter 設定ツール」を選択します。
- Windows 2003 OS では、「スタート」 → 「すべてのプログラム」 → 「Sun StorEdge 3000 Family」 → 「Diagnostic Reporter 設定ツール」を選択します。

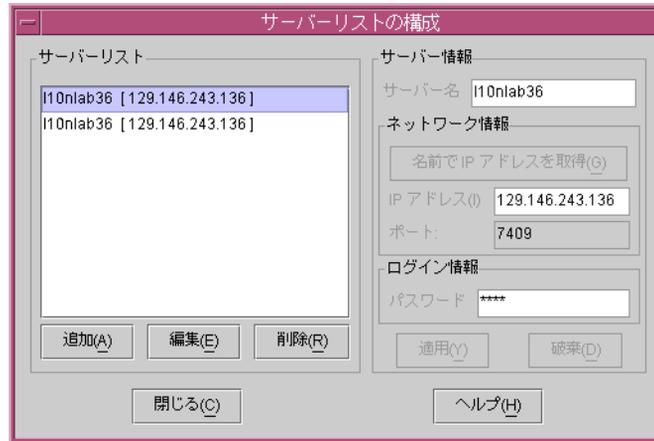
以前にデーモンを設定し、接続したことがある場合、設定ツールは最後に使用されたサーバーに自動的に接続します。

2. 初めてのインストールの場合は、まず設定ツールと、デーモンが実行されるサーバーとの接続を設定する必要があります。

- a. サーバー接続を作成するには、「サーバー」 → 「サーバーリストのセットアップ」を選択します。
- b. 「サーバーリストの構成」ダイアログボックスで、「追加」をクリックし、デーモンのサーバー名と IP アドレスを入力します。
- c. デフォルトのポート番号をそのまま使用します。この番号は自動的に表示され、設定ツール (UI) でデーモンと通信するために使用されます。
- d. サーバーの `ssconfig` ログインパスワードを入力します。

これは、Sun StorEdge Configuration Service のインストール時に設定したログインパスワードと同じものです。このパスワードがまだ設定されていない場合は、先へ進む前に設定する必要があります。詳細は、『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザーズガイド』を参照してください。

- e. 「適用」をクリックします。



「サーバーリスト」にサーバー名と IP アドレスが表示されます。設定ツールは複数のサーバーにアクセスできますが、同時に複数のサーバーや複数のサービスに接続することはできません。

各サーバーのパスワードを指定しなかった場合、サーバーに接続するたびにパスワードの入力を求められます。

3. 「閉じる」をクリックします。
4. サーバーに接続するには、「サーバー」 → 「DR エージェントに接続」を選択し、表示されたリストから適切なサーバーを選択します。



注 – サーバーに接続するには、Sun StorEdge Diagnostic Reporter エージェントが実行されている必要があります。エージェントの起動方法については、『Sun StorEdge 3000 Family ソフトウェアインストールガイド』を参照してください。

5. 「基本情報」タブをクリックし、電子メールサーバーとイベントメッセージで使用される情報を入力します。

- 「システム ID」と「場所」- サービスが常駐するサーバーの説明。
- 「顧客情報」と「連絡先情報」- イベント通知メールに添付する情報を指定します。複数の電子メールアドレスにイベントメッセージを配信する場合に便利です。
- 「SMTP サーバー」- Sun StorEdge Diagnostic Reporter が電子メールの送信に使用するサーバーの IP アドレスまたはドメイン名。無効なアドレス (またはドメイン名) を入力すると、そのアドレスまたはドメイン名を Sun StorEdge Diagnostic Reporter で検出することができないため、メールメッセージは送信されません。SMTP サーバーで認証が必要とされる場合、SMTP サーバーへのログインに必要な情報を入力する必要があります。

6. 「送信元」フィールドの入力形式は、次のとおりです。

`name@domain`

7. 報告するトラップメッセージを指定するには、「トラップ情報」タブをクリックし、「追加」をクリックします。

「トラップの追加」ダイアログボックスで、適切なパラメータを選択し、入力します。表 2-1 を参照してください。

The screenshot shows a dialog box titled "トラップの追加" (Trap Addition). It is divided into several sections:

- トラップ情報** (Trap Information):
 - コンテンツ: XML形式。
- トラップのタイプ** (Trap Type):
 - イベント (Event)
 - イベントタイプトラップのプロパティ (Event Type Trap Properties):
 - メール間の最小インターバル (HH: MM):
 - アクティブなトラップイベント (Active Trap Events):
 - 情報イベント (Information Event)
 - 警告イベント (Warning Event)
 - クリティカルイベント (Critical Event)
 - 定期的 (Periodic)
 - 定期的なトラップのプロパティ (Periodic Trap Properties):
 - 分:
 - 時:
 - 日:
 - 月:
 - 曜日:

- メール情報** (Mail Information):
- 暗号を使用する (Use Encryption) 暗号化キー:
- ページャを有効にする (Enable Pager) コンテンツがない (No Content) ページャの件名:
- メールの宛先:

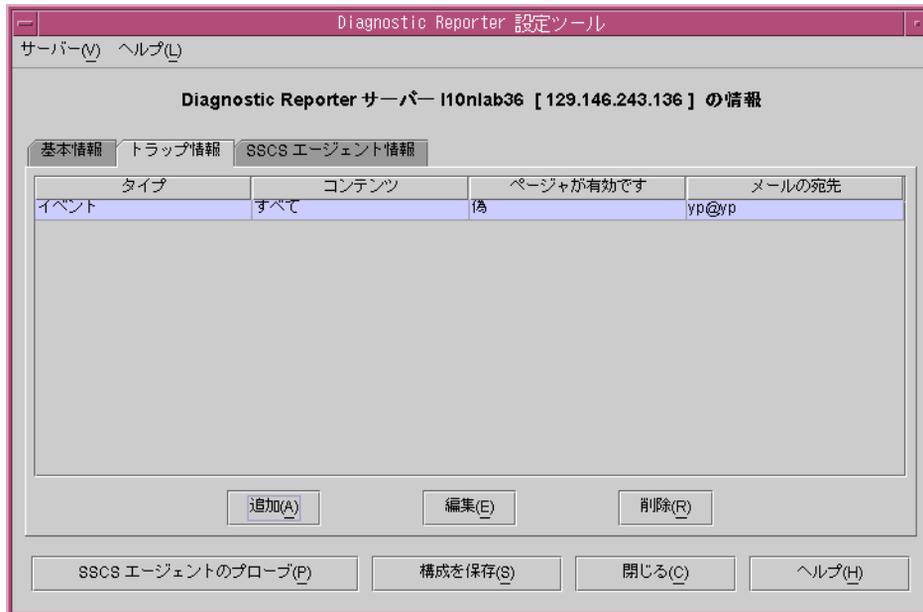
At the bottom of the dialog are three buttons: "保存" (Save), "キャンセル(C)" (Cancel), and "ヘルプ(H)" (Help).

最小限、トラップイベントを1つ選択し、メールの送信間隔を指定し、電子メールアドレスを1つ入力してください。複数の電子メールアドレスを入力するには、各アドレスを空白文字、コンマ、またはセミコロンで区切ります。

表 2-1 トラップ情報パラメータ

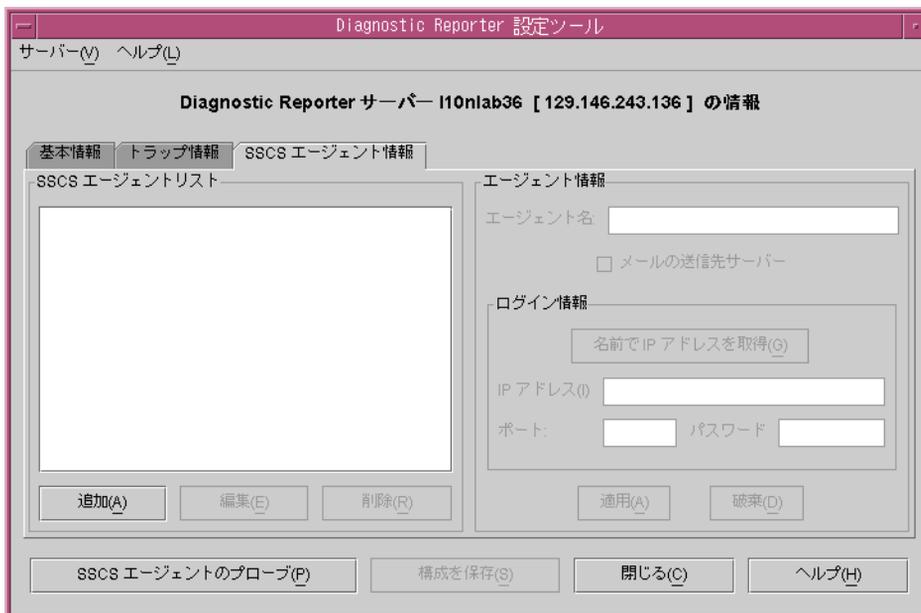
パラメータ	値/説明
コンテンツ	電子メール本文に含める情報を指定します。指定値： all/ event /log /report /hosteventlog イベントトラップを選択する場合、「メール間の最小インターバル」が0 または*であれば、「コンテンツ」は「イベント」になります。 定期トラップを選択する場合、「コンテンツ」は「イベント」にできません。
XML 形式	電子メールとレポートを XML 形式で作成する場合に選択します。
トラップのタイプ	トラップの種類として、「イベントタイプトラップのプロパティ」か「定期的なトラップのプロパティ」を選択します。
メール間の最小インターバル	イベントトラップ発生時の電子メール送信間隔を指定します。 * - イベントが発生するたびに報告します。 HH:MM - 時間間隔内で最後に配信されたイベントメッセージを報告する時刻を 24 時間形式の「時:分」で指定します。たとえば、午後 4 時 30 分の場合、「16:30」と指定します。 注: 必ず HH:MM の形式を使用してください。たとえば、24 時間ごとの時間間隔を設定する場合は、24:00 にします。コロンも忘れないでください。
アクティブなトラップイベント	イベントトラップは、3 種類のイベントのうちいずれかを選択してアクティブにすることができます。
定期的	crontab 形式を使って、電子メールの送信時刻を指定します。 分 (0 ~ 59 分) 時 (0 ~ 23 時) 日 (1 ~ 31 日) 月 (1 ~ 12 月) 曜日 (0 ~ 6、0 = 日曜)
チェックボックス - 暗号を使用する	チェックマークを付けた場合、暗号化された電子メールが送信されます。Sun に送信される電子メールを暗号化するには、「暗号を使用する」にチェックマークを付けます。暗号化キーは、イベントメッセージをダウンロードするときに表示されるオプションの識別子です。
チェックボックス - ページャを有効にする	ページャ対応のメールアドレスにメールを送信するには、このボックスにチェックマークを付け、「ページャの件名」にメールの件名を入力します。
チェックボックス - コンテンツがない	本文のないメールにする場合は、「コンテンツがない」を選択します。
メールの宛先	このメールの電子メールアドレスを指定します。複数のメールアドレスは、空白文字、コンマ (,)、またはセミコロン (;) で区切って指定します。

次の例では、すべてのイベントが選択され、support@sun.com に送信されます。



8. Sun StorEdge Diagnostic Reporter は、同時に複数の Sun StorEdge Configuration Service エージェントに接続できます。

複数の Sun StorEdge Configuration Service エージェントに接続するには、「SSCS Agent 情報」タブをクリックし、「追加」をクリックします。



Sun StorEdge Configuration Service エージェント 1 つ 1 つに対して、エージェント名、エージェントの IP アドレス、ポート番号、および ssconfig ユーザーがそのエージェントにアクセスするとき使用するパスワードを指定します。

- 「エージェント名」- 電子メールに記載される名前。実際のマシンホスト名または別名を指定できます。
- 「ポート」- Sun StorEdge Configuration Service エージェントのリスナーポート番号。デフォルト値の 1270 をそのまま使用します (ほかの有効な値は 1271、1272、1273)。エージェントに接続できない場合は、この値を変更してから再実行してください。
- 「パスワード」- ssconfig ユーザーのパスワード。Sun StorEdge Diagnostic Reporter デーモンが Sun StorEdge Configuration Service エージェントに接続するには、Configuration Service サービスから、ssconfig ユーザーの正しいパスワードがあらかじめ提供されていなければなりません。

エージェントのパラメータを入力した後、変更をキャンセルするには「破棄」をクリックし、この構成を保存するには「適用」をクリックします。エージェントリストにある各エージェントは、この構成が保存されている Sun StorEdge Diagnostic Reporter Service に、指定されたイベントメッセージを送信します。

9. 構成の作成または編集が完了したら、メインウィンドウの「構成を保存」をクリックして、構成を Sun StorEdge Diagnostic Reporter に保存します。

Sun StorEdge Diagnostic Reporter Service が再起動し、構成ファイルが再度読み込まれます。

10. ある時点における各エージェントの現在の状態を見るには、メインウィンドウの「SSCS エージェントのプロープ」をクリックします。

「エージェント情報」ウィンドウに色付きの状態ボタンが表示されます。このボタンから、各エージェントサーバー上の Sun StorEdge Configuration Service エージェントで Sun StorEdge Diagnostic Reporter Service がアクティブになっているかどうかわかります。

- 赤 - Sun StorEdge Diagnostic Reporter が Sun StorEdge Configuration Service エージェントに接続できません。
- 黄 - Sun StorEdge Diagnostic Reporter が Sun StorEdge Configuration Service エージェントを検索中です。
- 緑 - Sun StorEdge Diagnostic Reporter が Sun StorEdge Configuration Service エージェントに接続しています。
- なし - Sun StorEdge Configuration Service エージェントの情報が保存されていません。このボタンの色とテキストは、20 秒おきに変化します。

ホストイベントログ

トリガーイベントが発生すると、Sun StorEdge Diagnostic Reporter は、送信する電子メールにホストイベントログを添付します。イベントログは、エージェントのインストール先ホストのシステムログに記録されます。次の表に、イベントログが記録される場所を OS の種類別に一覧表示します。

表 2-2 イベントログの場所

OS	イベントログの場所
Solaris OS	/var/adm/messages (コンソールにも表示される)
Linux OS	/var/log/messages
Microsoft Windows OS	システムのアプリケーションログ内。イベントビューアで表示できます。イベントログをファイルから直接読み取ることもできます。 ¥Program Files¥Sun¥sscs¥eventlog.txt
HP-UX OS	/var/adm/syslog/syslog.log

注 - IBM AIX OS のデフォルトの設定では、イベントログは記録されません。IBM AIX ホストのログファイルにイベントログを書き込む方法については、『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザーズガイド』を参照してください。

ホストから大量のメッセージが生成され、SMTP サーバーによって許可されているメールサイズを超過してしまう場合があります。Sun StorEdge Diagnostic Reporter では、ホストイベントログのサイズを 5M バイトに制限しています。この値を変更するには、ssdgrpt_cfg.xml ファイルで、smtp 要素のメールサイズ制限属性の値を変更します。次の表に、このファイルの場所を OS の種類別に一覧表示します。

表 2-3 ssdgrpt_cfg.xml ファイルの場所

OS	ssdgrpt_cfg.xml ファイルの場所
Solaris、Linux、および HP-UX OS	/opt/SUNWsscs/ssdiagreporterd/
Microsoft Windows OS	<install path>%service% (デフォルトのインストールパスは C:\Program Files\Sun\ssdgrpt)
IBM AIX	/opt/SUNWsscs/ssdiagreporterd

たとえば、ホストイベントログサイズを 1M バイト (1024 × 1024 = 1048576) に制限するには、メールサイズ制限属性を次のように指定します。

```
<smtp auth="false" username="" password="XXXX" mail_size_limit="1048576" from="test@sina.com" >smtp.sina.com</smtp>
```

注 – メールサイズ制限属性を指定しなかった場合、Sun StorEdge Diagnostic Reporter はデフォルトのサイズ (5M バイト) を採用します。

▼ レポート機能を設定して使用する

レポート機能を使って、ローカル接続されたすべてのアレイの構成を含むレポートを生成することができます。

UNIX システム上でレポート機能を設定するには、次の手順に従います。

1. UNIX OS 上で、ローカル接続されたアレイを監視するローカルホストを構成します。
 - a. Sun StorEdge Configuration Service のメインウィンドウで、「アレイ管理 (A)」 → 「コントローラ割り当て (O)」を選択します。
「RAID コントローラを管理するサーバーを割り当てる」ウィンドウが表示されます。
 - b. 「このコントローラを管理するサーバー」リストからサーバーを選択し、「適用」をクリックします。
これにより、選択したサーバーがアレイコントローラを管理ようになります。同時に、リスト内のほかのサーバーは、このアレイを管理できなくなります。
 - c. 「閉じる」をクリックして、この表示を閉じます。

2. `ssdgrcli.cfg` ファイルにローカルサーバーを追加します。アレイに接続されている管理サーバーで、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/ssdgrptd -c -s password@ip address
```

`ssconfig` パスワードの入力を求められます。

3. 次のコマンドを実行して、レポートを生成します。

```
# /usr/sbin/ssdgrptd -r
```

デフォルトのレポートファイル名は `report.xml` です。Solaris、Linux、または HP-UX OS を実行している場合、レポートは `/opt/SUNWsscsc/ssdiagreporterd` に保存されます。IBM AIX OS を実行している場合、レポートは `/usr/SUNWsscsc/ssdiagreportered` に保存されます。

Microsoft Windows OS 上でレポート機能を設定するには、次の手順に従います。

1. `ssdgrptd` のインストールディレクトリ (デフォルトでは `C:\Program Files\Sun\ssdgrpt`) に移動します。
2. 次のコマンドを実行します。

```
java -cp .%;.%ssdgrptd.jar sscs_daemon -x -x
```

レポートを `xml` 形式で生成する場合は `x` の位置に `c` と `s`、`txt` 形式で生成する場合は `r` と `e` を指定します。

注 - `xml` 形式と `txt` 形式のどちらでレポートを生成する場合も、拡張子は `xml` です。

3. 次のコマンドを実行します。

```
java -cp .%;.%ssdgrptd.jar sscs_daemon -r
```

デフォルトでは、レポートは、`report.xml` という名前で、`ssdgrptd` のインストールディレクトリに保存されます。

▼ メール受信機能を設定して使用する

メール受信機能はオプションのツールで、通常の電子メールアプリケーションの代わりに使用できます。暗号化されていない電子メールと暗号化された電子メールを送受信できます。

1. メール受信機能を起動します。

- Solaris、Linux、HP-UX、または IBM AIX OS を使用している場合は、次のように入力します。

```
# ssdgrptpop
```

- Windows 2000 OS を使用している場合は、「スタート」→「すべてのプログラム」→「Sun StorEdge 3000 Family」→「Diagnostic Reporter メール受信機能」を選択します。
 - Windows 2003 OS を使用している場合は、「スタート」→「すべてのプログラム」→「Sun StorEdge 3000 Family」→「Diagnostic Reporter メール受信機能」を選択します。
- ### 2. 「Diagnostic Reporter 用の POP3 メールクライアント」ウィンドウに、ユーザー名、パスワード、およびイベントメッセージが送信される電子メールサーバーの IP アドレス（「POP サーバー」）を指定します。

必要であれば、SMTP 情報も指定します。



- a. イベントメッセージを受信するには、「接続」をクリックします。
- b. 暗号の復号が必要な場合は、「ファイルの解読」をクリックします。
- c. イベント情報やアラートをほかのユーザーにも送信するには、「全員に転送」または「選択して転送」をクリックし、着信先アドレスを指定します。

障害追跡

注 - エラーメッセージとプロンプトの一覧は、ご使用の阵列の『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザーズガイド』の付録「エラーコードとメッセージ」で確認できます。

Sun StorEdge Diagnostic Reporter から電子メールが届かなくなった場合は、Sun StorEdge Diagnostic Reporter をいったん停止し、再起動してみてください。

(UNIX OS) Sun StorEdge Diagnostic Reporter が動作を停止し、その状態を報告しなくなる原因としては、次の 3 つが考えられます。

- Sun StorEdge Configuration Service エージェントに問題が発生した場合、または Sun StorEdge Configuration Service を停止したあと再起動した場合、Sun StorEdge Diagnostic Reporter が動作を停止する。
- Sun StorEdge Diagnostic Reporter 設定機能の実行中に停止したデーモンを再起動すると、設定ツールがこのデーモンと通信不能になることがある。
- Sun StorEdge Configuration Service エージェントに問題が発生した場合、または Sun StorEdge Configuration Service が停止した場合、Sun StorEdge Diagnostic Reporter デーモンはこのことを検出せず、電子メールの送信は中止するが、Sun StorEdge Diagnostic Reporter が接続状態にあることを示す緑色のランプを表示し続ける。

この問題を回避するには、次の手順に従って、Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止し、再起動します。

注 - エージェント (デーモン) を起動および停止するには、スーパーユーザー (管理者) の特権が必要です。

▼ Solaris または Linux ホスト上で Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止し、再起動する

次のように入力します。

```
# /etc/init.d/ssdgrptd stop  
# /etc/init.d/ssdgrptd start
```

▼ Windows 2000 または 2003 ホスト上で Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止し、再起動する

1. Windows 2000 ホスト上でエージェントソフトウェアを起動するには、「スタート」→「すべてのプログラム」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」を選択します。

Windows 2003 ホスト上でエージェントソフトウェアを起動するには、「スタート」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」を選択します。

「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューから「管理」を選択しても同じことができます。

2. 「サービスとアプリケーション」をクリックします。
3. 「Sun StorEdge Diagnostic Reporter サーバー」を選択し、起動または停止するサービスを右クリックします。

▼ HP-UX ホスト上で Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止し、再起動する

次のように入力します。

```
# /sbin/init.d/ssdgrptd stop  
# /sbin/init.d/ssdgrptd start
```

▼ IBM AIX ホスト上で Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止し、再起動する

次のように入力します。

```
# /usr/sbin/ssdgrptd stop  
# /usr/sbin/ssdgrptd start
```

